



美瑛町そだちの教室通信
7月号
2021年6月24日



7月が目前となりました。学校では水泳授業も始まり、夏を感じさせる活動もスタートしています。1学期も残すところ1ヶ月です。

他校通級・面談を再開します



さて、4週間に渡る北海道の緊急事態宣言が解除されました。この間、様々な変更を余儀なくされ、皆様には大変不自由をおかけしました。中でも、他校通級が休止措置となったことに戸惑いを感じましたが、在籍校の協力と保護者の方々のご理解のもとに、クロームブックを用いた子どもたちとのオンライン通話を実施することができました。在籍校の先生方には、お忙しい中お手数をおかけしました。本当にありがとうございました。

まだまだ予断を許さない状況ではありますが、22日から他校通級指導が再開しています。久しぶりの元気な姿に大変安心しました。あわせて、面談も再開したいと思います。

緊急事態宣言解除後も、指導終了後の消毒作業や換気等、感染予防対策に努めて参ります。保護者の皆さんにおかれましても手指消毒等のご協力どうぞよろしくお願いいたします。

※今回、自校通級の保護者の方々にはこの通信と一緒に面談日程調整表をお渡しいたしました。ご記入の上、お子さんを通じて担任まで提出くださいますよう、よろしくお願いいたします。（お忙しいこととは思いますが、7月2日までにご提出ください。）

7月 さんの通級予定 日程表※色のついている日が通級日です。

月	火	水	木	金
			1	2
5 東小参観日 (高) 5校時休室	6	7	8	9
12 東小修学旅行 2校時休室	13	14	15	16 1学期通級最終日
19	20	21	22	23
26	27	28	29	30

「そだちの教室ってどんなことするの？」 ③

…通級指導教室での「算数」について…

前回の通信では、算数が私たちの生活においてたいへん身近な存在であることと、社会的自立のために生活の中で算数を使える力を育てていくことの大切さをお伝えしました。

今回は、右のピラミッドで土台となっている「数処理」です。学習以前、もしくは初期段階で習得していく算数の力についてです。

数えることを失敗する A さん

「リンゴがいくつあるか数えて数字で書きましょう。」という課題で、間違ってしまう A さん。様子を観察してみると「いち、に、さん…ご…なな」と言いながら、数えとばしたり、同じリンゴを 2 回数えたりして、正しく数えられていないことがわかりました。



この A さんの課題は

① 数詞を系列正しく唱えることができていない

② 唱えている数詞にリンゴを 1 対 1 対応させることが難しい。(数える指の動きと数唱のタイミングが合わない…など)

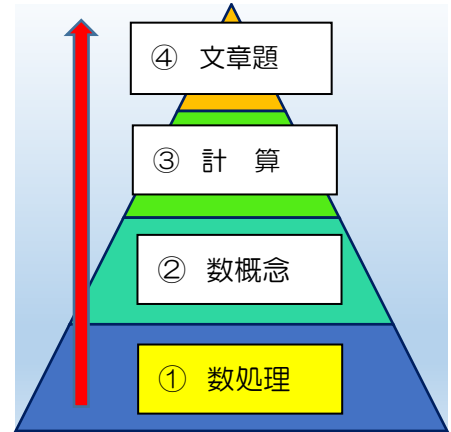
また、大きな数になると「さんじゅういち」と聞いて「301」と書いてしまったり、桁の大きな数を読むことに苦労したりというつまずきにも現れます。

「数処理の弱さ」には…

「すごろく」はとてもよい活動です。数詞・数字・具体物との対応関係がなかなかうまくいかない場合には、サイコロの目(ドットや数字)を声に出して、1つひとつこまを動か(操作)していくことで、数詞・数字・具体物の対応関係を結び付ける活動だからです。このときに、「サイコロの目をどうするか」に気を配っていくことも大切です。その子の実態に合わせて、サイコロの目を調整することもできます(例:数字だけでなくドット(具体物)を取り入れたり、2・4・6・8・10・12と2とびの学習ができるようにするなど)。

また、サイコロを 2 個組み合わせると目の数の足し算を取り入れたり、「あといくつで(相手に)追いつくかな?」「あといくつ出たらゴールだ」などと遊びの中で数の操作をたくさん行ったりすることも可能です。何よりも遊びながら「楽しく」という活動は、子どもにとって大きなモチベーションにつながります。そだちの教室では、そうした子どもたちの意欲に働きかけ、学びにとって不可欠な力を育てていきたいと考えています。

次号では、「数処理」の次のステップ「数概念」について紹介していく予定です。



『通常学級で役立つ算数障害の理解と指導法』より 熊谷恵子・山本ゆう 著

